資料７

202401 計画実行・監視専門調査会（第 32 回）
石黒不二代　発言要旨

国際的な取り組みを踏まえた我が国の対応、企業における女性の採用・育成の強化等について、ですが、国際的な取り組み、SDGs などは、企業においては ESG という形で投資家とのコミュニケーションが実際されています。ですから、後半の女性の管理職割合などとも共通するのですが、私から、企業の取り組み状況についてお話しします。

ここ数年、企業、特にプライム市場の上場企業は、ESG への取り組みが盛んです。これは、企業ごとにまだバラツキはあるものの、私が実際に外部取締役を何社か拝命し、10 年以上に渡ってその役割の中で体感していることです。企業のマテリアリティを定義し、ESG の中の目標設定をし、人的資本経営の進捗状況を常に統合報告書に書くことが求められています。もちろん、ジェンダー平等は、そのどれにも当てはまり、どの企業も目標とすることができるものです。

また、投資家からの要請が昨今ますます激しくなり、特に大企業に対して、この目標を達成しない限り議案に反対票を投じるというものも見受けられます。もともとは、ISS やグラスルイスなどの欧米の議決権行使助言会社の方針に基づいて各機関投資家（海外と国内を含む）が各社で方針を決めています。つまり、海外のこうした議決権行使推奨会社も、海外投資家も、実は、日本は遅れているため、その方針を緩めて意見を出してくるが、さすがに、それがだんだん強くなっているという状態です。例えば、取締役に女性が 1 名もいない場合は、代表取締役の再任に NO の票を入れるというようなものです。

すると、会社側もその機関投資家の持分が多い場合には、考慮せざるを得ず、それもドライビングフォースとなり、もちろん、外からのプレッシャーではなく、自ら真摯に取り組んでいる企業も多く見られます。

女性の役員育成のための努力と言うものの一例をお話ししたいと思います。私が取締役を務めている某大企業の話です。執行役員の一歩手前の役職に就いた女性従業員全員にメンターをつけ、そのメンターは社長や会長の場合もあります。メンターとのコミュニケーションの機会は年に 10 回以上、また、ウーマンイニシアティブという女性専門の育成会議のようなものがあり、そこで、自らのキャリアや地図組織をどう成長させるかと言うプレゼンテーションを行い、それを外部取締役を含めたアドバイザーが助言を行っていき、リーダーシップ能力を育成していきます。私はこの企業の役員をして以来、この役員の人たちがジェンダーのバイアスを持っていると感じた事は一度もありません。つまりやっている企業はあるので

す。先日のこの会社の会長と女性の育成について話す機会があり、以前は、人事がやり方がわからなかったんだ、というようなことを話していらっしゃいました。この企業は海外転勤が普通にある会社ですから、女性にそれをやらせるのは危ないと言う規制概念があったのだろうと思います。実は私にも同じような経験があり、私が最初に務めたブラザー工業において、私は長期会外出張をした女性社員第一号でした。しかし、私の上司が人事と話したところ人事は危ないということで大反対だったそうです。それを 2 人の上司が二日間かかって説得したと言う話を覚えています。そもそも仕事をするときに危険なことをさせることは男女ともあってはならないもので、女性にはやはり同等の機会を与えるべきだと思います。ですから、この会社も今では普通に女性を海外赴任させていますし、もともと男性しかできないのではと思われるようなサービスを提供している会社ですが、そういう職場で女性が当たり前に活躍をしている、ジェンダーバイアスのない素晴らしい会社になってきたと思っています。

マミートラックとお迎えですが、私は、日本の子育てのインフラがあまりにプアであることから、かねてから考えていた MBA の取得のために渡米しました。インフラがプアであると言う理由は、6 時以降に空いている保育所が公認保育所においては 1 つもなかったということです。しかしながら、シリコンバレーに行ってわかった事は、シリコンバレーこそ 6 時以降空いているプリスクール(保育所)は 1 つもありません。しかしながら、6 時に駆け込んでくる親は、女性だけでなく、男性もほぼ同数ですその中には就業中の医師、弁護士、ノーベル賞受賞者もいます。つまり、6 時に間に合うように、親は会社を出ることが当たり前の就業形態、それが会社の文化の中にも根付いている社会を作ることが大切だと思います。
私は、子供が 2 歳の時に渡米し、スタンフォード大学に入学すると同時に子供を学校近くのプレスクールに預けました。早い時期に保育所に預けると言うことに当時は若干の罪悪感があったものの、実行してみると、子供の社会性は育ち、すくすくとアメリカ社会に順応していった子供の様子をお迎えの時に見るのはこの上ない喜びでした。それを、まさに男性も見るべきだと思います。

最後に育休ですが、現在の統計は 1 日でも育休を取ることで取ったことにカウントされているようです。育休の長さも考慮に入れないと実態を表す比較にならないため、この点を今後考慮していただきたいと思います。